

第3回あいち教育賞入賞者（最優秀賞・優秀賞）

【実践研究部門（学びのフロンティア）】

《最優秀賞》

社会に関心を向け、課題を追究する児童の育成

－小学5年社会科「日本の産業」における「理想の街づくり」を通して－

常滑市立青海中学校 澤 慎二郎

〈短評〉

社会事象を多面的・多角的に捉え、根拠を基に自分の考えをもつ児童の育成をねらいとした実践である。児童のつぶやきから「日本の産業」がどう変化するのかという学習課題を設定し、討論を通して多面的・多角的な捉えをし始めたところで模造紙に各班の「理想の街」を創作させた。児童が社会事象を自分事として捉え、粘り強く思考する様子が生き生きと書かれており、汎用性のある研究となっている点が高く評価できる。

《優秀賞》（順不同）

自ら問題意識をもって追究し、関わり合いを通して、深く考える子の育成

－3年社会「たくさんのお客さんが集まるスーパーマーケットのヒミツを調べたい」の実践を通して－

刈谷市立住吉小学校 谷村 公基

〈短評〉

社会科の学習において、スーパーマーケットを教材化し、販売の仕事に問題意識をもって追究し、学びを深めていく実践である。児童の思考の流れを大切にしながら学習活動が展開され、実際にスーパーマーケットに出かけて調査を行い、その後の話し合いの場では、資料提示や構造的な板書を手がかりにしながら、学びを深めていく様子が丁寧に述べられている。

思いや願いの実現に向けて主体的に取り組み、人と関わることのよさを感じる子の育成

－年長児との互惠性のある交流活動を通して－

蒲^み郡^や市立三谷小学校 高^{たか}橋^{はし} 浩^{こう}司^じ

〈短評〉

年長児との互惠性のある交流活動を通じて、児童の思いや願いの実現に向けて主体的に取り組ませることで、人と関わることのよさを感じる子の育成を目指した実践である。幼保連携がしやすい環境を生かし、保育者の思いも汲み取りながら年長児との交流を行うことで、児童は人と関わることのよさを感じることができた。年長児も小学校への入学が楽しみになるなど、交流活動が有効であったことが伺える。

スクールポリシーに基づいて生徒の主体的・対話的な学びと探究心を刺激し、「学びに共感と責任をもつ」生徒の育成を目指す実践

－高2論理国語『『具体と抽象』の重要性と必要性を1年生に伝える授業を行おう』の実践から－

愛^い知^ぬ県立犬^{いぬ}山^{やま}総^{そう}合^{ごう}高等学校 田^た中^{なか} 琢^{たく}斗^と

〈短評〉

学習した内容を下級生に伝える中で、自己有用感や共感力を高め、主体的な学びを深めることを目指した実践である。生徒が他学年の生徒に授業をする取組は画期的であり、生徒たちの学びへの意欲や主体性を高めるとともに、探究心を育む上で効果的だと言える。また、スクールポリシーに基づいた実践であり、ICTを効果的に活用した点も高く評価できる。

【教育研究論文部門】

《最優秀賞》

伝え合い、自ら考える国語の授業

—小6・国語科「物語から自分の生き方について考えよう～海のいのち～」の実践を通して—

蒲郡市立塩津中学校 石原 佳奈

〈短評〉

国語の学習において、児童の思考に寄り合いながら言葉に着目させ、主体的に読みの力を身に付けることを目指した実践である。児童の学習意欲を引き出す導入、児童の思考に沿った課題設定や単元構想、互いの考えの共有等の手だてについて、授業記録や板書、振り返りの記述を基に丁寧に検証している。児童が自分事として課題を捉え、主体的に話し合う中で考えを変容させていく様子を明確に示し、手だての有効性を明らかにした説得力のある論述が高く評価できる。

《優秀賞》（順不同）

社会的事象に向き合い、多面的・多角的に捉えながら考え抜くことで深い学びを表現できる児童の育成

—一人一台端末を効果的に活用した歴史の授業実践を通して—

春日井市立勝川小学校 陶山 公紀

〈短評〉

歴史の授業において、当時の人々の立場で社会事象を考察する歴史日記を書く活動を通して、社会事象を自分事として捉え、課題について追究し続ける力をもつ児童の育成をねらいとした実践である。児童は歴史的事象に対し多面的・多角的に思考をめぐらしており、単元が進むにつれて、より多くの人の思いに気付くことができた。ICTも効果的に活用した実践である。

社会的な見方・考え方を働かせ、他者と共に学びを深める生徒の育成
－ 1年社会科「井ヶ谷古窯がつなぐ 刈谷と日本」の実践を通して－

刈谷市立刈谷南中学校 かりやみなみ 杉浦 碩恭 すぎうら ひろたか

〈短評〉

地域の歴史と日本の歴史を関連付け、多角的な視点から課題を追究した実践である。生徒の言葉を用いた切り返しの発問や、社会的な見方・考え方を働かせる資料作成など、工夫を凝らした取組が見られた。また、実物資料を活用し、仲間や学芸員との対話を通して他者と共に学びを深めていく様子がよく分かる実践である。

目的意識をもって現象を主体的に追究し、根拠をもとに科学的に考察し、他者と関わり合いを考えを深める生徒の育成
－ 1年理科「目を見たものは本当なの？～光の性質～」の実践を通して－

豊橋市立牟呂中学校 むろ 山本 伸樹 やまもと のぶき

〈短評〉

生徒が疑問をもって追究したくなる単元構想や教材の工夫をしたり、生徒一人一人に実験の場を設定しICT機器を効果的に活用したりすることで、目的意識をもって現象を主体的に追究し、根拠に基づき科学的に考察できる生徒の育成を目指した実践である。ピンホールカメラや凸レンズカメラの観察で得た疑問を追究する活動を重ねることで生徒主体の学びを促している点が高く評価できる。